

第7回小諸新校再編実施計画懇話会（オンライン）

日時：令和3年9月17日（金）

18時～19時30分

Zoomを用いたオンライン会議

<次 第>

1 開 会

2 挨 拶

3 報告事項

- (1) 第6回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

4 会議事項

- (1) 校地検討部会からの報告（含：意見交換）
- (2) 小諸新校の学びのイメージについて（両校職員のプレゼンテーション）
- (3) 佐久地域の中学校卒業生数の推移と募集学級数について（情報提供）

5 その他

<次回の予定>

○第8回小諸新校再編実施計画懇話会

【日時】 11月2日（火） 18時～19時30分

【会場】 小諸高校 音楽棟 2F 音楽ホール

【内容】 意見交換（学びのイメージ、募集学級規模、開校年度他）

6 閉 会

第6回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)7月20日(火) 18時00分～19時30分		
場所	小諸高等学校 音楽ホール		
出席	懇話会構成員24名		
欠席	懇話会構成員 1名	傍聴者	傍聴3名、報道2社
事務局	小諸商業高校	藤澤教頭(事務局長)、原教諭、中村教諭、浅沼教諭、中山教諭	
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、甲田教諭	
	県教育委員会	上原主幹指導主事、高野担当係長、丸山担当係長、柳沢敬	
当日資料	第6回懇話会次第、第5回懇話会まとめ、両校生徒の「小諸新校の学びについて」プレゼン資料		

会議事項

- 1 報告 (1) 第5回懇話会まとめ (2) 第4回校地検討部会報告
 2 会議 (1) 「小諸新校の学びについて」プレゼン及び意見交換 ※連絡事項 次回予定(令和3年8月12日)

「小諸新校の学びについて」両校生徒のプレゼンテーション及び意見交換

【小諸商業・小諸高校生徒によるプレゼンテーション】 <小諸新校の学びについて> ～新校建設への望み～

- 第3回懇話会での両校生徒によるプレゼンテーションのまとめ
 - 《小諸商業》学年を超えた交流がない問題点がある反面、デュアルシステムやスマイル小商店街などで活動が活発化
 - 《小諸高校》多言語学科の提案等による多様性への対応の必要性和、駅から学校までの距離が遠いという問題提起
- 両校の伝統ある部活動の更なる発展を目指して
 - 空手部、レスリング部、吹奏楽部、陸上部、野球部、商業系部活動等、両校では特色のある部活動が盛ん
 - 例>レスリング部=両校とも活発、全国的な成果。子ども向けレスリング教室等、地域全体での発展に期待
- 連携した文化祭の取組(来年度から順次実施)
 - 《小諸商業》地域連携の一層の充実、小諸高校音楽科とコラボレーション、小中学校との連携した活動に発展させる
 - 《小諸高校》多言語講座等を通じ多様な地域交流を目指す。販売の基本を学び、小商のスマイル小商店街本番に繋げる
- 音楽科の新企画 ～音楽科は小諸高校の華～ 感動の波を拡げる企画
 - 企画①『長野県一周音楽ツアー』演奏(音楽科)、広報・経理(商業科)、宣伝や小中学生との触れあい企画(普通科)
 - 多言語のパンフレット作成等で、県内在住の外国人や観光客にもPR
 - 企画②『訪問演奏会・合同練習』地域との演奏交流や、地元小中学生との合同練習によりレベルアップが期待できる
- 授業についての提案
 - 提案①『探究の充実』プチ職業体験や青空授業等により、小諸市内にある事業所や施設、自然環境を有効活用し、新校での有意義な学習活動の充実を期待
 - 提案②『考えさせる授業』ディベートやプレゼンテーションを中心に実施し、授業内で出た問題を深掘りする授業各自が興味ある分野ごとに、自らの進路実現に向けて主体的に取組む授業時間を増やす

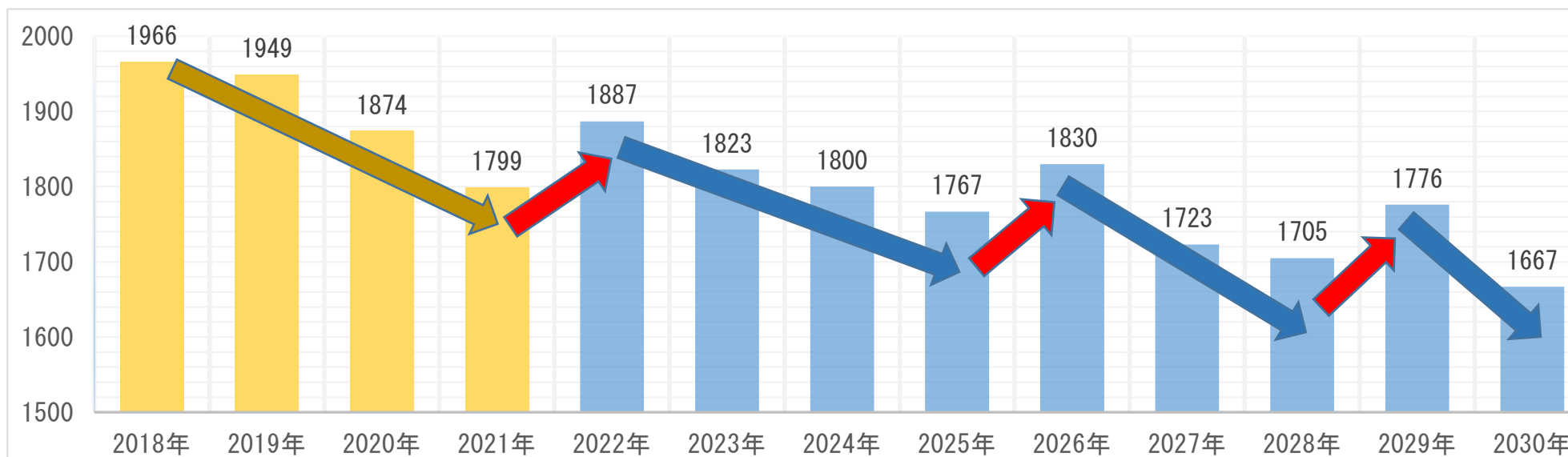
【意見交換】(『小諸新校とまちづくり』)

- 学科融合、地域連携を深める新校の方向性は非常に良い。小諸の良さをさらに引き出し、商業教育の東信の中核としての魅力(マーケティングや広告宣伝等、経営やビジネス的な学び)を活かし、普通科は単に進学を目指すのではなく、文理問わず地域に根差した探究的学びに期待。総合学科でなく普通科、商業科、音楽科が、それぞれ並立し進化し夢のある学校になると思う。地元小諸の元気、東信のビジネス界に人材を輩出する拠点校として期待している。
- 農業には六次産業の課題がある。どうやって掛け算にしていくかが成功へのカギ。音楽も商業も融合できると思う。
- 生徒の発表にもあったが、高校は授業主体で地域との連携もそこから生まれる。授業の中で課題を持った時、自分の進みたい方向とか将来の生き方につながっていく。やはり、授業力、教材を活用する力も大切にしていけたらいい。
- 地域と連携し地域の人たちも一緒にやってもらえるとよい。どんな場が必要かという観点でアプローチすると、生徒達の活動が地域のためになって、自分も一緒に作っている実感がもてる。そういうサイクルになればいい。
- いろんな提案があったが、どんどん情報発信して、統合前からできることはやっていけたらいいと思った。
- 小中高校で、アクティブラーニング等の流れが生まれてきていると感じた。学びの継続性がさらに活かされたらいい。
- 学校が新しくなれば、中身が変わる訳ではない。今から動くことが大切。子ども達を外に出すということはリスクもあるが出さなければ経験できない。地域への幅を広げるには、継続的にコーディネーターとして携わる方が必要。
- 少子化が進む中で、地域と小中高校生の交流ができることは、子ども達の幸せに繋がる。プチ職業体験は大事。どういう会社でどういう業態、業種ということを体験するためのもので、短期間の形でもいいと思う。
- 生徒発表は素晴らしかった。これからの方向性を示したと思う。生きる力、21世紀型の学力を示してくれたと思う。

旧第6通学区（佐久地域）の中学校卒業生数予測

高校教育課 高校再編推進室

西暦年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
中学卒業生数	1,966	1,949	1,874	1,799	1,887	1,823	1,800	1,767	1,830	1,723	1,705	1,776	1,667
前年との差	-	-17	-75	-75	88	-64	-23	-33	63	-107	-18	71	-109
学年	(19歳)	高3	高2	高1	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1



合計学級数	42	40	39	37									
① 小諸商業	4	4	4	4									
② 小諸	5	5	5	5									
①+②の比率	21.4%	22.5%	23.1%	24.3%									
③ 野沢北	5	5	5	5									
④ 野沢南	5	5	5	5									
⑤ 上記以外	23	21	20	18									

合計学級数	42	40	39	37									
普通科	31	29	28	26									
専門科	9	9	9	9									
総合学科	2	2	2	2									

※音楽科・理数科は普通科としてカウント